

再稼動 みんなの力でやめさせよう！

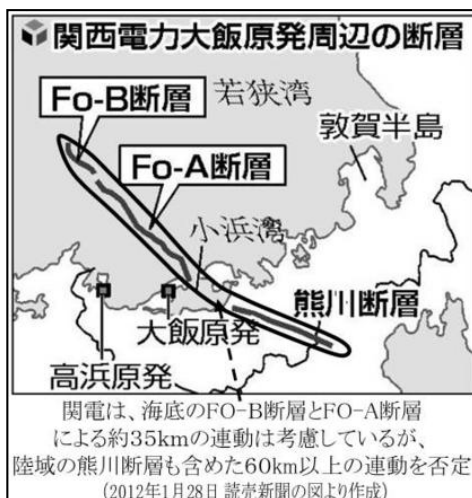
近くの3つの活断層が連動した地震に 大飯原発は耐えられない

データごまかしで再稼動を狙う関電は
住民のいのちを危険にさらしている

54基ある原発で今動いているのは、たったの1基。このまま動かなければ5月には原発ゼロが実現します。
そんな中、国と関電は大飯原発3・4号機の再稼動を強引にしようとしています。

しかし、近くの活断層3つが連動して地震が起これば、大飯原発が耐えられないことが明らかになりました！
なんとしても大飯原発3・4号機の再稼動をとめましょう！

専門家が指摘する3つの活断層の連動評価を無視する関電



大飯原発の耐震性評価は、2つの活断層（F0-B断層とF0-A断層）が連動した地震の揺れ（700ガル）で大丈夫というものです。しかし、近くには連続するかのよう熊川断層という活断層があります。

1月27日、国の原子力安全・保安院が5km以上離れた活断層の連動を検討するよう指示しました。2月29日に関電は検討の結果3連動を考慮しないこととしました。保安院の地震・津波に関する意見聴取会では4人の委員が関電の報告を認めず「3連動を評価すべき」と主張しました。しかし、それでも関電は3連動を考慮しませんでした。

(←びわこ集会の資料より)

“止める”“冷やす”“閉じ込める”の“止める”ができないと・・・容易にメルトダウンへ

地震ではまず原子炉を止めなければいけません。
しかし、揺れが大きくなるほど原子炉を止める制御棒が入りにくくなります。

1年前に起こって、今もなお“冷やす”ことができていない福島第一原発事故。この事故は地震が起こって“止める”はできたと発表し、ホッとしたのもつかの間、“冷やす”ことができず、爆発しました。

大飯原発では大地震の時に“冷やす”前の“止める”ができない可能性があるのです。

“止める”が遅れると、核燃料の温度が上昇し、福島原発事故のような炉心熔融（メルトダウン）が起こりやすくなります。

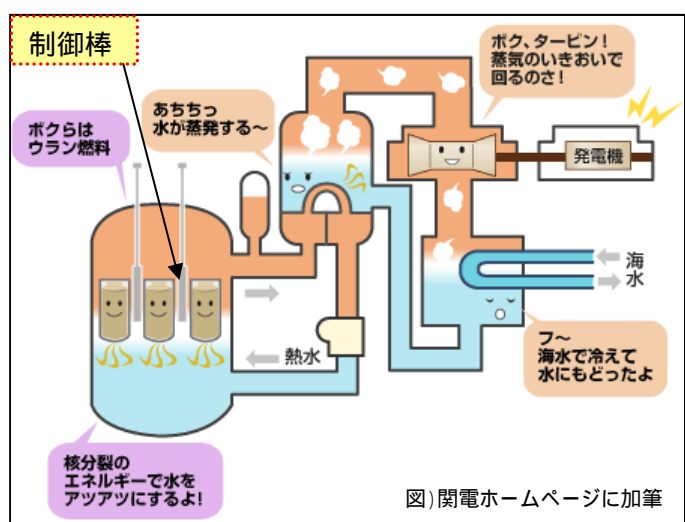
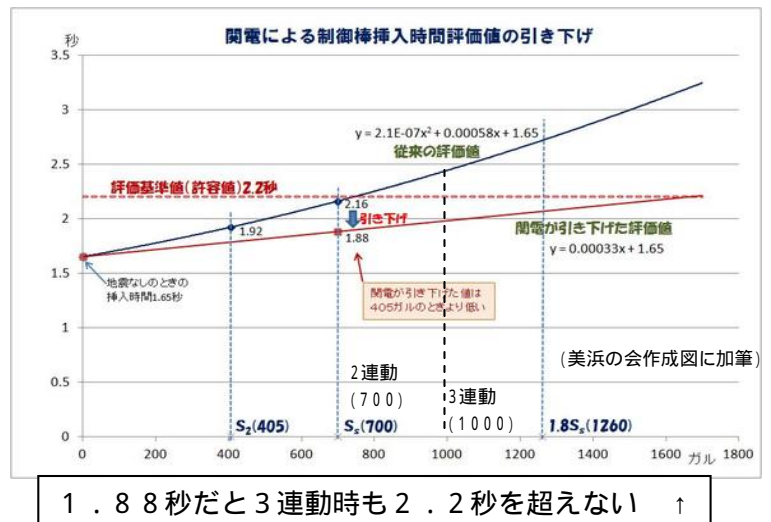


図) 関電ホームページに加筆

核分裂反応を止める制御棒の挿入時間が 2.2 秒を越えるとその原発は動かしてはならない

関電は今まで 2 連動を考慮して制御棒の挿入時間を 2.16 秒と評価してきました。基準値 2.2 秒まで余裕はたった 2 % しかありません。3 連動になると基準値の 2.2 秒を超えてしまうことは確実です。基準値を超える原発は動かしてはいけません。ところが 3 月 13 日、制御棒の挿入時間は 2.16 秒ではなく 1.88 秒という数字が出てきました。これは根拠も出さず、どこからのデータなのか出典も答えない始末です。3 連動評価でも制御棒の挿入時間が基準値 2.2 秒を超えないよう操作した改ざんの疑い大です。



福島原発事故が起こって、厳しく評価をするべきなのに、逆に甘くしている関電。これでは若狭の地震で、まとも大惨事は避けられません。

制御棒挿入時間の基準値	2 連動の挿入時間	公式報告のない引き下げた挿入時間
2.2 秒	2.16 秒	1.88 秒 (3 月 13 日に突如出現)

大飯原発で事故が起こると大阪も被害から逃れられない～ 私たちも被ばくする～

大阪から 100 km、琵琶湖から 40 km の若狭の大飯原発 3 号・4 号。大飯原発で福島原発事故が起こると、琵琶湖が放射能で汚染され、私たちのいのちの水が危険にさらされます。福島原発事故では、220km 離れた東京で水が飲めなくなった実態もあります。

滋賀県は地域防災計画を見直すため専門機関に依頼して独自に放射性ヨウ素の拡散予測を実施していました。右図は大阪府が滋賀県からこの拡散予測図の提供を受け、公表したものの一部です。

大阪府の東一帯・羽曳野市・富田林・堺市美原区・松原市と大阪狭山市の東側にまで甲状腺の被曝等価線量が 50 ~ 100mSv と予測されています。

そんな大飯原発が

動かされないよう声を上げていきましょう

